

夏
休
み
前



美園小だより

令和8年7月17日
さいたま市立美園小学校
第195号 児童数 1036名
Tel 048(812)6611
Fax 048(878)6660

学びが暮らしとつながって

校長 河野 秀 樹



今日で1学期が終わります。子どもたちは、友達と関わり合いながら多くのことを学び、考えを深めてきました。4年生は社会科で「健康な暮らしとまちづくり」の学習をしました。緑区的美園地区に住んでいる私たちが日常使っている水は、遠く埼玉県秩父地方の山から流れてくる荒川から大久保浄水場を経て届くことを学びました。子どもたちの学習後のノートには「私はこの学習をする前まで、水を使うことが当たり前だと思っていました。でも、この学習をして水を使うことが当たり前ではないことを知りました。こういう水を飲めるのは、川の水などをためてくれるダム、浄水場の人の役割があるからこそ、私たちは今こうして美味しい水を飲める。じゃ口をひねると水が出てくる。このことができるのは、とても素晴らしいことだなあと感心しました」などと書かれ、水を得るには多くの人たちの働きがあり、水は暮らしに欠かせない大切なものであること学んでいました。

私は以前、秩父市にあるダムの一つ、浦山ダムを訪れたことがあります。ここの資料館に入ってみると、壁面いっぱいに秩父の源流から東京湾までの173kmに渡る荒川周辺の人々のくらしや、自然の様子を表すイラストが描かれていて、その絵に釘付けになりました。そして「川はつながっているのだなあ」と思いました。

杉田図書館司書と話をする中で、なんとこの壁面に描かれていた鳥瞰絵図の絵本が本校の図書室に所蔵されていることを偶然に知ることができました。題名は「日本の川 あらかわ・すみだがわ」。改めて読んでみると、実に興味深かったです。山梨県や長野県、群馬県に接する上流では、クマタカやシカ、ツキノワグマが生息し、林業が行われていること。いくつものダムを経て、中流になると、堤防や水塚、水路など大水や水不足から暮らしを守る工夫をしながら農業が行われていること。さいたま市の付近では取水堰や調節池が見られ、下流では、元々荒川だった隅田川と今の本流に分かれながら多くの人々が暮らす東京を流れて、東京湾に注いでいることが分かりました。

明日から長い夏休みになります。子どもたちは日頃学校生活ではできないことを、たくさん体験する機会があると思います。そこで得た知識や経験は、これまでの生活や学校での学習とつながり合って「へえ！なるほど！そうだったのか！」と、納得する学びになると思います。そして、さらに興味が高まり、理解が深まることになるでしょう。私たち教職員は、これからも流れる川の水のように、子どもたちの学びを支えるよりよい環境であるように努めていきます。

保護者や地域の皆様には、1学期の間、学校教育に御理解、御協力をいただきありがとうございます。

お知らせ

【給食における異物混入事案について】

6月22日（月）に、本校の給食において異物混入事案が発生し、保護者の皆様には大変御心配、御不安をおかけしましたことを、改めてお詫び申し上げます。

本事案につきまして、学校及び教育委員会において確認を行いました。混入経路を特定することはできませんでした。

学校では、児童が安心して給食を食べられるよう、校舎内の掲示物に使用している画紙の固定方法を見直し、全教室でマスキングテープによる補強を実施するとともに、配膳方法や給食指導についても改めて見直し、再発防止に取り組んでおります。

今後も、児童が安心して給食の時間を過ごせるよう、安全・安心な給食環境づくりに努めてまいります。

【個人面談への御協力ありがとうございました】

6月中旬～下旬に実施した個人面談では、御多用の中、御都合をつけて御来校いただき、誠にありがとうございました。

保護者の皆様と直接お話しすることで、担任にとってはお子さんの成長や御家庭での様子をより深く知る貴重な機会となりました。今後も、学校と御家庭が連携しながら、お子さん一人ひとりのよりよい成長を支えてまいりたいと考えております。引き続き、御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

【もしもの時に備えて～救助袋を活用した避難訓練～】

7月8日（水）、本校では、災害時に通常の避難経路が使用できない場合に備え、教職員による救助袋を活用した避難訓練を実施しました。当日の様子を動画で撮影し、全校児童が視聴することで、救助袋の役割や避難方法について理解を深めました。実際に救助袋を使用する機会がないことが一番ですが、「もしも」の場面を具体的にイメージし、一人ひとりが自分の命を守る行動について考える機会となりました。

【夏休み・ファミリーラジオ体操に向けて～「夏休み・ファミリーラジオ体操」記念品贈呈式～】

7月14日（火）、青少年育成美園地区会会長の石田様より、今年度もラジオ体操カードと記念品をいただきました。校長室では、6年生の代表児童が出席し、感謝の気持ちを伝えました。

夏休みの朝に体を動かすことは、生活リズムを整える上でも大切なことです。御家庭でもお声かけいただき、健康的な生活づくりにつなげていただければと思います。

【エネルギーマネジメント事業の開始について】

さいたま市ではゼロカーボンシティの実現を目指しており、その施策の一つとして令和8年度7月1日より、市立学校で使用する電力が、学校での太陽光発電の他、主にクリーンセンター大崎で発電された再生可能エネルギーに切り替わるエネルギーマネジメント事業が開始されました。

この事業が開始されることで学校の電力由来のCO2排出量を実質ゼロにすることができ、そのCO2削減量は年間9,700世帯分の削減にも相当します。

ゼロカーボンシティの実現のためにぜひ省エネ行動に御協力をお願いします。

【子どもたちの学びを支えるスクールアシスタント】

本校では、6名のスクールアシスタント（SA）が、子どもたち一人ひとりに寄り添いながら、日々の学校生活を支えています。

授業中の学習支援や個別の声かけ、教室での見守り、活動の補助など、担任と連携しながら、それぞれの子ども状況に応じたきめ細かな支援を行っています。安心して学習に取り組める環境づくりや、子どもたちの「できた」「わかった」を支える大切な存在です。

本校では、藤原 美紀さん（週4日）、石垣 美穂さん（週4日）、加藤 まどかさん（週3日）、井関 ちえみさん（週3日）、佐藤 光子さん（週3日）、島貫 恵子さん（週2日）の6名が勤務しています。教職員とスクールアシスタントが力を合わせ、これからも子どもたちが安心して学校生活を送れるよう支援してまいります。



【地域の皆様に支えられています】

今年度から、地域の皆様にも学校ボランティアとして御協力いただいています。

水泳学習では、民生委員の藤原 茂さんに学習ボランティアとして御参加いただき、児童の安全を見守りながら、実際にプールの中で泳ぎの補助や声かけを行っていただきました。子どもたちも安心して学習に取り組むことができ、大変心強い支援となりました。

また、Sola るーむでは、民生委員の中塚 星子さん、勇永 佐智子さん、安田 香さん、文部科学省在外教育アドバイザーの清水 賢司さんに支援ボランティアとして御協力いただいています。子どもたちに温かく寄り添い、見守りや活動のサポートをしてくださることで、安心して過ごせる居場所づくりにつながっています。

地域の皆様の温かい御支援に心より感謝申し上げます。これからも学校・家庭・地域が連携しながら、子どもたちの健やかな成長を支えてまいります。